研修Ⅱ　県教委委託事業の報告

さぬきの授業　基礎・基本　実践事例

1　「言語活動を充実させた指導」の工夫　　高松

（１）国語科における「言語活動の充実」とは、

①　本単元で付けたい力を見極める。

②　付けたい力にぴったりな言語活動を設定する。

③　言語活動は、単元を貫いて位置づける。

④　「大好き」「はてな」「伝えたい」を生かす。

（２）実践事例

単元「りっちゃんサラダのレシピをつくってつたえよう―『サラダでげんき』―」

（東京書籍　第1学年下）

①　本単元で付けたい力

ア　「誰が」「どんなことを教えてくれたか」各場面の様子の変化をとらえ、その様子を豊かに想像しながら読む力

②　育てることができる「考える力」

ア　「比べて着目する」力

料理本と比較→レシピに表す事柄（読み取りの観点）

イ　「整理して比べる」力、「体験や知識と比べて、推量する」力

既習場面と比較、経験と比較→レシピの内容

③　言語活動を選定する観点と単元を貫く言語活動

- 付けたい力と設定する言語活動を遂行する力がぴったり合う。
- 子どもの日常生活で活用できたり、読書活動に結びついたりする。
- 子どもの意識や願いを重視する。
- 子どもが見通しをもち、主体的に課題解決できる。

↓

単元を貫く言語活動　「レシピ作り」

④　児童の意識を大切にする。

「お家の人にも伝えたい。」「実際に作ってみたい。」

⑤　指導の実際

第１次　導入　<u>着目する力の育成</u>

- 読み聞かせ。感想をまとめ、話し合う。始めと終わりをつなぐ。
- 教師の付けたい力と児童の思いをすりあわせる。
- 学校図書館と連携

・　料理本と共通する内容の洗い出し

・　表現の仕方

・　キャラクター

→レシピの内容とレイアウトを決定

第２次　レシピ作りに必要な情報を取り出し、整理する。

情報を取り出す力の育成・イメージをふくらませる力の育成

・　場面の確認

・　音読や動作化を通して、動物の登場の仕方、動物の会話、りっちゃんの返事、りっちゃんの行動の確認

整理する力、補充したり修正したりする力の育成、体験や知識とつなぐ力の育成

・　ノートに、学習課題と読み取った内容を記入

・　馬が登場する場面

既習場面と比較→省略された部分を自分の経験とつないで補充する。

相互交流→修正、補充した事柄を記入する。

・　ハムを入れる場面

ハムの入れ方を考える。

「おおいそぎで」→そのまま入れた等

大人なら常識的なことでも子どもにとって未経験な内容は、学び合いを取り入れたり、教師が支援したりする。

・　自分のおすすめの具材を考える。

元気になるサラダ・おいしくなるサラダ←給食指導の内容も

第３次　比べる活動

自分の学びを評価することにつながる。

・　自分のレシピと友だちのレシピを比較

共通する内容　登場する動物、順番、内容の確認

違う内容　　本文にない内容、付け加えた材料

（３）成果と課題

・　レシピ作りは、思考力や主体性を育てるのに有効。

・　比べる活動により、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力が身に付いた。

・　物語全体をつないで考えることができた。

・　評価、学び合いについては、今後も研究していきたい。

２　「話し合いが苦手な子どものための指導」の工夫　丸亀

（１）「話し合う力を育てる指導」の工夫とは、

- 聞くことから始める。
- 話し合いの課題を明確にする。
- 話し合いが苦手な子どものための指導を工夫する。

（２）実践事例

単元『問題を解決するために話し合おう』（東京書籍　第６学年）

①　単元の目標

- 協力して話し合う。
- 意見を的確に伝える。
- 発言の意図を考えながら話し合う。

②　問題を解決するための話し合いの流れ

問題を確かめる→問題の原因を考える→解決する方法を考える→まとめる

③　学習指導要領　話すこと・聞くことの指導事項

互いの立場をはっきりさせながら計画的に話し合う。

→役割ごとの話し合う力の目標を設定する。

発言者　意見と理由を明確にしながら話す。

聞く人　友だちの意見の意図を考えながら聞く。

司会者　意見を関係づけ提示する。

計画的に話し合いを進める。

④　児童の実態

発表や話し合いに苦手意識。話す力を消極的に捉えていた。司会に不安。

↓

話し方が分からない。話すことがない。心理的不安。」

⑤　指導の実際

学習指導計画

事前指導　話し合う練習

第１次　見通し、学習のめあて、話し方が分からない児童への手立て

第２次　話し合いの進め方、司会の役割、話すことがない児童への手立て

話し合いの留意点、意見と理由を付箋にまとめる

第３次　グループでの話し合い、心理的不安をもつ児童への手立て

第４次　振り返り

「話し方が分からない」児童への手立て

・　ディベートを実施

→回数を重ねるごとにすぐに答えることができるようになった。

体験を入れて説得できるようになった。

・　３文で話す

→１文を短く、簡潔に話すことができるようになった。

・　既習事項、教科書の話型を利用

→発言しやすくなった。

・　話型をカードにまとめる。教室に掲示し、使えるようにした。

→使ってみたい言葉を増やそうとする児童も見られた。

例　発言者の話し方で効果のあったもの

・　良いと思ったら素直に認めて理由を言う。

・　反対するときは、代案を言う。

・　理由を意識して聞き、分からなければ質問する。

・　話型カードを振り返りの場面で利用

→グループの話し合いが活発化した。

「話すことがない」児童への手立て

・　話題の工夫　クラスの問題を議題とする。

・　発言内容の準備としての作戦タイム

自分の考えをノートに書き出し、その中から選択する。

→意欲化、積極性の向上　経験とつないで言えるようになった。

多面的に思考できるようになった。

・　友だちの意見は宝箱

相手の意見を引用して話す。

「～は分かりましたが、～について説明してください。」と質問する。

分からないことを聞くことは、話し合いを深めることにつながることに気づかせた。

→達成感、話し合いがつながることの楽しさを実感することができた。

自分の意見に友だちが反応してくれることにうれしさを感じていた。

「心理的不安」がある児童への手立て

・　グループでの話し合いを経験させた。

・　学級でルールを決めた。

攻撃しないこと

〈話型例〉

○○さんの意見に賛成です。～なので良いと思います。

～は、賛成ですが、～だと思います。

～は分かりましたが、～についてもう一度説明してください。

～とはどういうことですか。

司会者は、一人の意見をみんながどう思っているか確かめる。

・　聞く人は、受容的共感的な態度で聞く。（相手のために聞く）

目線、うなずき、コメントを返す（繰り返し指導）

→安心して話せる。発言の声が大きくなった。発言回数が増えた。

・　話し合う準備をしっかりと行う。

付箋の活用（原因、解決方法）

→見通しをもつ。

・　話し合いの中で、原因と解決方法を分けて整理する。

→話し合いの内容が視覚化され、課題が明確になった。

共通点、相違点が明確化した。

積極的に話し合えるようになった。

・　色々な教科でペア活動を取り入れる。

→友だちと協力して答える楽しさ、自信につながった。

・　モニタリングを用いた話し合いを実施する。

個人の話し合いのめあてを確認

↓

グループで話し合い

↓

モニタリング、相互評価

↓

発表者に観察者（審査員）を付ける。

☆　チェックカードの利用

☆　動画で撮影

↓

ベストアンサーを話し合う。クラスで実行

↓

話し合いを振り返る。

→　自信、話し合いの目標をもつことができた。

評価に生かすことができた。

友だちに学び、次に生かそうとする児童が多かった。

（３）成果と課題

- 発表への自信をもつことができた児童が多かった。
- 発言の意図を利用しようと進んで質問することができた。
- 積極的に司会に携わろうという児童が見られた。
- 個人差があるので継続的に指導する必要がある。